

2018 年 9 月 大学院生による北京市内の視察及び北京林業大学との共同開講授業の実施

学部間協定を結んでいる北京林業大学において、2018 年度造園学専攻開講科目の「造園調査法詳論、及び造園調査法評論演習」を行いました。9 月 12～18 日の 7 日間で行い、本専攻の大学院生 6 名と引率教員 2 名の計 8 名が参加しました。日程と訪問地は次の通りです。

9 月 12 日：北京に移動

9 月 13 日：頤和園、圓明園への視察

9 月 14 日：林箒先生の設計事務所での授業、北京林業大学との交流・論文発表会

9 月 15 日：故宮、景山公園への視察

9 月 16 日：天壇公園、胡同への視察

9 月 17 日：清華大学の教員、学生との交流

9 月 18 日：オリンピック公園等視察、帰国

10 月 3 日：学部生に向けての本活動の報告会

北京林業大学園林学院（本学造園学専攻卒業）の雷芸先生にご協力いただき、園林学院の学生や先生との交流を行いました。中でも修士論文の発表と意見交換を行ったところ、中国では植物分野が少なく設計デザイン分野が中心という特徴に刺激を受けました。また、同じ北京林業大学園林学院教授の林箒先生は、設計事務所も経営しており、自身のゼミの生徒をアルバイトとして起用しながら教育効果を高めていました。こうした日本と異なる大学のシステムも興味深く感じます。

いくつかの公園・緑地を見学しましたが、どの公園も大変広く、使われている資材も緑化の規模も日本とは桁違いの印象でした。日本と比べ生物の種類が少なく、こういった環境が研究分野にも大きく影響しているようです。都市計画に関しても、日本ではみられにくい大規模な再開発や整備が目立ちました。

実際に現地に赴き、現地学生、先生方との交流や、新旧さまざまな街並み・庭園・公園・緑地を見学して中国の歴史・文化・伝統技術への理解を深め、それを体感できたことは学生・教員共に大きな刺激となったのではないかと思います。

最後に、北京林業大学の雷芸先生をはじめ、林箒先生、お世話になった学生や関係者の皆さんに感謝を申し上げます。

（農大報第 147 号、平成 30 年 12 月発行予定より転載）